

新型コロナウイルス感染症の報告が増加！

【概況】

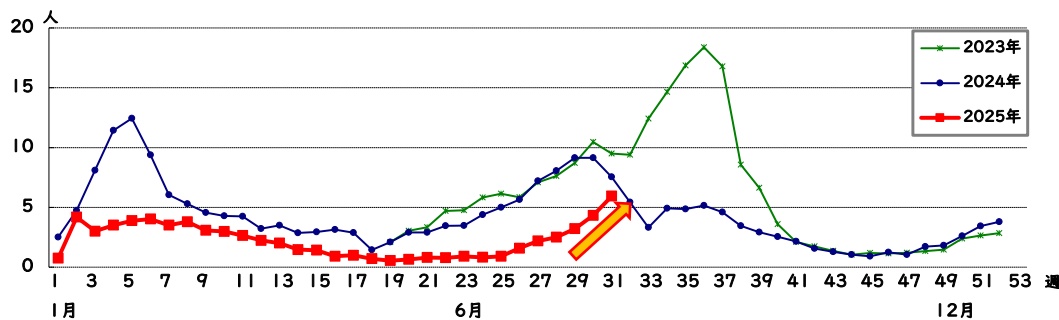
2025 年第 31 週(7 月 28 日～8 月 3 日)の定点当たりの患者報告数※は、横浜市全体で **5.94** となり、6 月中旬(第 25 週)以降、患者報告数が増加しています。

患者の年齢構成は、50 歳代が 17.8%と最も多く、10 歳未満が 15.0%、60 歳代が 13.2%となっています。

※ 1 週間に 1 回、定期的に医療機関(市内 90 か所)からご報告いただいた患者数の平均値です。

【市内流行状況】

新型コロナウイルス感染症は、2023 年第 19 週(5 月 8 日～5 月 14 日)から定点把握疾患となりました。2025 年は緩やかな減少から横ばいの状態が続いていましたが、第 25 週以降、増加に転じています。第 31 週は 5.94 です。



定点あたりの患者数推移

2023 年第 19 週～2025 年第 31 週

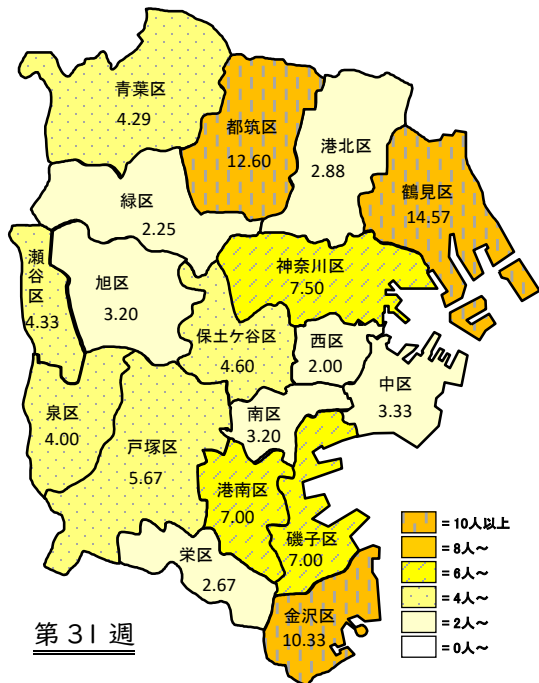
※ 2025 年 14 週(3 月 31 日～4 月 6 日)以降、定点医療機関が 153→90 機関へ変更されました。

新型コロナウイルス感染症とは

潜伏期は通常 1～7 日で、

感染者から 1～2m 以内の距離で、ウイルスを含んだ飛沫やエアロゾルを吸うことで感染します。換気が悪い室内は注意が必要です。ウイルスがついた手で粘膜(口・鼻・目)を触ることで感染します。咽頭痛、鼻汁・鼻閉といった上気道症状に加え、倦怠感、発熱、筋肉痛などの全身症状を生じることが多いですが、無症状の人もあります。軽症の場合、多くは発症後 1 週間以内に症状が改善しますが、症状が持続(いわゆる後遺症)する場合もあります。予防には、マスク着用を含めた咳エチケット、換気、手洗いやアルコールによる手指消毒、ワクチンなどの基本的な感染対策が効果的です。

登校(園)基準は、発症した後 5 日を経過し、かつ、症状が軽快した後 1 日を経過するまで出席停止とされています。なお、発症から 10 日を経過するまでは、当該児童のマスク着用が推奨されています。



第 31 週



最新の感染症情報は
横浜メディカルダッシュボード

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課
横浜市医療局健康安全課

TEL 045(370)9237
TEL 045(671)2463